



禁止を表す‘☒☒’と先行用言の活用に関する考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本韓国研究会 公開日: 2023-08-09 キーワード (Ja): 禁止表現, ☒☒と☒☒用言, 補助的連結語尾, 先行用言 キーワード (En): 作成者: 飯田, 華子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000030

禁止を表す ‘말다’ と先行用言の活用に関する考察

— ‘-ㅎ/하-’ 用言を中心に—

飯田 華子（関西大学大学院博士後期課程）

<要旨>

本研究は、禁止を表す補助動詞 ‘말다’ に ‘-ㅎ/하-’ 用言が先行する文において、‘말다’ の前における ‘ㅎ디/하지’ の省略に焦点を置き、‘ㅎ디/하지’ の省略の有無と用言の特徴との関係を通時的に考察した研究である。例えば現代語では、‘이제 걱정 마세요. (もう心配しないでください。)’ というような文において、‘하지’ が ‘말다’ の前で省略されている。これまで禁止を表す補助動詞 ‘말다’ に関する研究の中では、先行形態に関する研究も存在し、‘-하-’ 用言において ‘하지’ の省略が可能であることは言及されてきた。しかし、具体的な省略の条件については明らかにされていない。本研究ではこのような ‘ㅎ디/하지’ の省略が、‘말다’ の前においてどのような条件で起こっているのか、その省略の条件と先行用言との関係を具体的に明らかにしようとするものである。先行用言の考察は、以下の二つの観点から考察を行う。(1) ‘-ㅎ/하-’ 用言に先行する語彙の音節数の観点から、(2) ‘-ㅎ/하-’ 用言の持つアスペクト的特徴の観点から。研究対象は 15 世紀から 19 世紀までの文献と現代語コーパスを対象とする。

キーワード 禁止表現、말다と하다用言、補助的連結語尾、先行用言

1. はじめに

本研究は、禁止を表す補助動詞 ‘말다’ に ‘-ㅎ/하-’ 用言が先行する文において、‘말다’ の前における ‘ㅎ디/하지’ の省略に焦点を置き、‘ㅎ디/하지’ の省略の有無と用言の特徴との関係を通時的に考察した研究である。具体的に

¹ 禁止を表す ‘말다’ に先行する補助的連結語尾は、口蓋音化の表記への現れから ‘-디>-지’ のような変化を見せている。

は、以下のように課題を設定する。

- I 補助動詞 ‘말다’ にどのような ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言が先行しているのか。
- II 補助動詞 ‘말다’ の前で ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言はどのように活用・省略しているのか。
- III 先行用言と ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言の活用・省略はどのような関係を見せているのか。

まず、補助動詞 ‘말다’ に先行する ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言としてどのようなものが出現しているのか、(1) 語彙の音節数の観点からの考察と(2)用言の持つアスペクト的特徴の観点からの考察を通して、それらの用言を具体的に明らかにする。そして、補助動詞 ‘말다’ の前における ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言の活用様相を、補助的連結語尾と ‘ᄃᆞ디/하지’ の省略を基準に考察する。そして、先行する ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言の特徴と ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言の活用の関係性を、(1) 語彙の音節数の観点から、(2)用言の持つアスペクト的特徴の観点から、具体的に明らかにする。

2. 先行研究

2.1 補助動詞 ‘말다’ について

補助動詞 ‘말다’ は、結合する連結語尾などによって多様な意味を表すことができ、このことからその語自体の意味の多様性がうかがえる。補助動詞として使用される ‘말다’ の持つ意味として、国立国語院の標準国語大辞典では以下のように記載している。

表1 『標準国語大辞典』による補助動詞 ‘말다’ の意味

①	(동사 뒤에서 ‘-지 말다’ 구성으로 쓰여) 앞말이 뜻하는 행동을 하지 못하게 함을 나타내는 말. 筆者訳：(動詞の後で ‘-지 말다’ の構成で使われ)前の語が意味する行動をできないようにすることを表す語。
②	(동사 뒤에서 ‘-고(야) 말다’ 구성으로 쓰여) 앞말이 뜻하는 행동이 끝내 실현됨을 나타내는 말. 일을 이루어 낸 데 대하여 긍정적인 생각 또는 부정적이고 아쉬운 느낌이 있음을 나타낸다. 筆者訳：(動詞の後で ‘-고(야) 말다’ の構成で使われ)前の語が意味する行動がつい実現されることを表す語。物事を成し遂げるのに対し肯定的な考えまたは否定的な残念な気持ちがあることを表す。

表1に見られる補助動詞 ‘말다’ の二つの意味を例文で示すと以下のようである。

- (1) a. 이곳에서 수영하지 마세요.
ここで水泳しないでください。
b. 새로운 기계 발명에 성공하고야 말겠다.
新しい機械の発明に成功してやろう。

(『標準國語大辭典』)

本研究はこのような大きく二つに分けた意味のうち、表1の①で示した意味を持つ ‘말다’ を考察対象とする。例文(1)において、(1) a の文のみを対象とし、(1) b のような文は本研究の対象としないものとする。

このような補助動詞 ‘말다’ に関して、朝鮮語文法では否定表現の中で扱ったり命令表現の中で扱ったりと、確立した一つの文法範疇ではなく、他の文法範疇の補充法として位置付けられることが多い。

이관규(2017)、고영근(2019)などは、否定表現の中で、以下の表のように否定表現を ‘안’ 否定文、‘못’ 否定文、‘말’ 否定文の3つに分け、その中の一種類として扱っている。このような先行研究のほとんどは、否定文の中で命令文や勧誘文での否定は ‘말다’ を使って表すとし、活用形態として叙述語の語幹に ‘-지’ を付けてその後に ‘말다’ が結合すること、平叙文や疑問文では使われないことを明らかにしている。否定表現に関しては、これまでも多くの研究者が着目し、通時的な研究もみられる。しかしながら、否定表現の研究の中で、‘안’ 否定文と ‘못’ 否定文の比較研究はこれまで活発に行われてきた反面、‘말’ 否定文に着目した研究は多くない。

최현배(1955)、장경희(2005)などは、命令表現または行為指示表現の中で禁止を表す ‘말다’ を扱っている。このように命令文を命令と禁止の意味を表す文であるとし、またこのような先行研究では、ほかの否定補助動詞は命令形にすることが不可能であるため ‘말다’ を使うということ、命令文の中に属すからこそ ‘말다’ の語尾は命令形であることを明らかにしている。

一方、本研究で考察の対象とする言語行為としての「禁止」とは、相手に対する行為要求の機能を持ち、依頼、勧め、指示、許可などと同じように、相手の行為の発動に関わるものである。そのため、話し手の意思が非常に強く表れる表現である。김영란(1998)、이은희(2012)は、禁止表現を対象とした研究である。これらは禁止表現を否定表現や命令表現とは切り離し、一つの文法範疇として確立させようとしたものであり、‘말다’ を使った禁止表現以外にも禁止の意味をもつ多様な形態を挙げて研究を行った。

このように、様々な文法範疇の中の一つとして、何かの補充法として主に扱

われ、補助動詞 ‘말다’ のみに焦点を当てた研究はこれまで活発的に行われてこなかったのが実際である。

2.2 ‘-ᄃ/하-’ 用言について

‘하다’ 用言は、形容詞である場合、‘-하-’ が派生接尾辞であるというのが一般的である²が、動詞である場合の ‘하다’ に関しては様々な論議がされてきた。動詞 ‘하다’ 自体に関しては、최현배(1961)³、‘-하다’ 動詞に関しては、심재기(1982)⁴など、体言が先行する ‘하다’ 動詞がどの機能に相当するののかというのが、これまでの研究者の注目を集めてきた。このような研究の中で注目されてきた一つとして、先行する語彙と ‘ᄃ다/하다’ との「分離性」を挙げることができる。このような中、本考察では、先行する語彙と ‘ᄃ다/하다’ との間に完全な「分離性」を見るのが難しいと考え、このような動詞における ‘-ᄃ/하-’ を動詞化接尾辞として扱う主張に従うこととする。つまり、남기심, 고영근(2019)や이관규(2007)における派生語の中に属するという主張のもとに考察を進めていく。これらは、「派生語」に ‘-ᄃ/하-’ 動詞が属し、単独の動詞 ‘ᄃ다/하다’ と捉えるのではなく、接尾辞 ‘-ᄃ/하-’ として考えるという考え方である。

また、‘-하-’ に先行する体言に関しては、‘-하-’ の文法的機能の観点、先行する語彙の観点、それによる ‘하다’ の意味の変化の観点から様々な研究が進められてきた。이서란(1998)は、‘漢字語+하다’ は韓国語の複合動詞の大多数を占めていること、そしてこの動詞を構成する漢字語語基はいくつかの例外を除いてすべて「動作性」を表すことを明らかにした。김창섭(1997)は、非叙述性名詞と本動詞 ‘하-’ もしくは接尾辞 ‘-하-’ が創造的言語使用の脈絡で、状況的もしくは比喩的な意味が加わって使われるとき、新しい意味が動詞 ‘하-’ 側に付与される場合もあれば、名詞側に付与される場合もあることを明らかにしている。

本研究ではこれまでの研究を踏まえ、禁止を表す補助動詞 ‘말다’ に先行する場合の ‘-ᄃ/하-’ 用言に着目し、その通時的変遷の様子を明らかにしていく。

² 이관규(1999) 『学校文法論』の単語の形成体系に従う。

³ 최현배(1961)は、‘하다’ の文法的機能を、動詞・派生接尾辞・補助動詞に分けて説明している。

⁴ ‘-하다’ 가 동사화소, 즉 일종의 파생접미사로서 서술 기능 대행, 서술 기능 완결의 기능을 수행하면서 의미상으로는 선행어근의 투영 의미를 완전 표출한다. (筆者訳：‘-하다’ が動詞化素、つまり派生接尾辞として叙述機能代行、叙述機能完結の機能を遂行し、意味上では先行語根の投影意味を完全表出する。) 심재기(1982)引用

2.3 先行研究の検討

これまで、補助動詞 ‘말다’ に関する研究の中で、先行する ‘-ᄃ/하-’ 用言に関する考察を行った研究として、이세영 (2002) と 박지연 (2010) を挙げることができる。

이세영 (2002) は、‘말다’ の統辞的環境や意味特性を明らかにし、‘말다’ 構成の文法化の現象を明らかにすることを目的とした研究である。‘말다’ の多様な意味は、その語自体で決まるものではなく、先行語尾が結合した構成体を一つの意味単位としてみるべきとし、その文法化の段階を四つに設定した。一段階は「中断」の意味を持つ ‘-다(가) 말-’、二段階は「義務」のモダリティを表す ‘-지 말-’、三段階は「認識」のモダリティを表す ‘-다(가) 말-’、四段階は反復等その他固定形態である。이세영 (2002) は、‘-지 말-’ の先行形態として、‘하지’ が省略されて体言や副詞の後に表れることについて言及しており、先行用言の[動作性]が ‘하지’ の省略の条件であることを明らかにしている。しかし、これは現代語のみを対象とした研究であり、通時的な考察は行っていない。

박지연 (2010) は、‘말다’ の文法範疇とその変化の過程を通時的に明らかにし、現代の ‘말다’ の共時的な文法体系に新しい観点を提示すると共に、禁止を表す ‘말다’ に関して以下の四点を明らかにした。一つ目は、禁止を表す ‘말다’ の文法化は近代から起こったこと。二つ目は、「名詞句+ ‘말다’」の文では、助詞が結合せず、語尾の活用は、禁止対象行為が[-行為性]の場合は ‘말고’、[+行為性]の場合は ‘-라, -자, -으면, -고’ が結合すること。三つ目は、‘-지 말-’ の構成において、‘-지’ に結合する ‘-를, -는, -도, -만’ の要素は 18 世紀以降に出現したこと。また、終結語尾に「命令、希望、当為」の意味が来るという制約ができること。四つ目は、‘말다’ は他動詞、もしくは主語が非行為主である自動詞に使われること。以上の四つを明らかにした。ここでは、「名詞句+ ‘말다’」の文における名詞句の[±行為性]の性質による文の統辞的特徴の変化を明らかにしている。しかし、名詞句の種類と ‘하지’ の省略の関係については具体的に言及していない。

3. 研究方法

15 世紀から 19 世紀においては、文献から直接データを収集した。収集に引用した文献は文章体を表 2 に、会話体を表 3 にまとめて示す。

表 2 引用文献 (文章体)

時代	世紀	文献名	略称	刊行年度
中世	15 世紀	法華經諺解	法華	1463
		内訓	内訓	1475
		三綱行實圖	三綱	1481
	16 世紀	續三綱行實圖	續三綱	1514
		二倫行實圖	二倫	1518
		小學諺解	小學	1588
論語諺解		論語	1590	
近代	17 世紀	家禮諺解	家禮	1632
		女訓諺解	女訓	1658
	18 世紀	御製内訓	御内	1736
		女四書諺解	女四書	1737
		五倫行實圖	五倫	1797
	19 世紀	三聖訓經	三聖	1880
		聖經直解	聖經	1895

表 3 引用文献 (会話体)

時代	世紀	文献名	略称	刊行年度
中世	15 世紀	-	-	-
	16 世紀	翻譯老乞大	翻老	1517 以前
		翻譯朴通事	翻朴	1517
近代	17 世紀	老乞大諺解	老解	1670
		朴通事諺解	朴解	1677
	18 世紀	朴通事新釋諺解	朴新解	1765
		隣語大方	隣語	1790

本研究が禁止表現を考察対象とすることから、文章体の引用文献では出現頻度の高いと思われる教育書や宗教書を中心とする。この中で抽出された用例は、15 世紀 44 用例、16 世紀 64 用例、17 世紀 107 用例、18 世紀 80 用例、19 世紀 114 用例であり、これらを本考察の対象とする。

20 世紀以降の現代朝鮮語においては、国立国語院で作られた「21 세기 세종계획 말뭉치 (21 世紀世宗計画コーパス)」のうち現代語書き言葉平文コーパス(36, 879, 143 語節)と現代語話し言葉平文コーパス(805, 646 語節)、そして延世大学言語情報研究院で作られた「연세 20 세기 한국어 말뭉치(延世 20 世紀韓国語コーパス)」(150, 378, 870 語節)を使用して用例を抽出した。その中で抽出された計 2, 832 用例を本考察の対象とする。

4. 先行用言⁵の出現様相

ここでは、補助動詞 ‘말다’ に先行する ‘-ᄃ/하-’ 用言としてどのようなものが出現しているのか、語彙の音節数の観点からの考察と用言の持つアスペクト的特徴の観点からの考察を通して、それらの用言を具体的に考察していく。

4.1 先行する語彙の音節数による分類

まず、補助動詞 ‘말다’ に先行する ‘-ᄃ/하-’ 用言を、‘-ᄃ/하-’ に先行する語彙の音節数別に分類する。一音節、二音節、二音節以上に分けてその出現様相を整理すると以下のようである。

表 4 ‘-ᄃ/하-’ 用言に先行する語彙の音節数別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
一音節	25	33	47	29	29	409	265
二音節	18	31	60	51	83	856	1192
二音節以上	1	-	-	-	2	37	80

それぞれ音節別に ‘-ᄃ/하-’ 用言が出現する例文を 15 世紀から 19 世紀、現代語に分けて提示する。

- (2) a. ᄃ토매 이기요물 꼴티 말며
 狼母求勝ᄃ며(内訓 1:8a)
 争いに勝ちを求めず
- b. 나그내네 허물⁶ 마오
 客人們休怪(翻老上 41a)
 客人を怪しまず

上の例文(2)は、15 世紀から 19 世紀に見られた文である。例文(2)a は一音節の語に ‘-ᄃ-’ がついたものであり、例文(2)b は二音節の語に ‘-ᄃ-’ がついたものである。

⁵ 15 世紀から 19 世紀までの出現した用言の詳細は付録 1 を参照。

⁶ 先行名詞として現れる ‘허물’ に関しては、語源的にみると ‘힘+을(目的格助詞)’ のように解釈できるが、15 世紀にはすでに名詞として扱われていた文が確認されたことから、本稿でも名詞として扱うこととする。

- (3) a. 아무 증거도 없이 함부로 그런 말하지 마시오. (『오성과 한음』)
何の証拠もなく勝手にそんなことを言うな。
- b. 그렇게 한심스럽게 생각하지 말자. (『내 영혼의 상처를 찾아서』)
そんな情けない考えをしないでおこう。
- c. 작은 일이나 큰 일이나 거짓말하지 말고. (『나라사랑의 길』)
小さいことにも大きいことにも嘘をつかず。
- (21世紀世宗計画コーパス)

次に上の例文(3)は、現代語に見られた文である。例文(3)aは一音節の語に‘-하-’が結合したものであり、例文(3)bは二音節の語に‘-하-’がついたもの、そして例文(3)cは二音節以上の語に‘-하-’がついたものである。

4.2 アスペクト的特徴による分類

用言の分類の基準の一つとして、語彙的アスペクトの理論をもとにした分類が挙げられる。アスペクト(動作相、aspect)とは、進行や完了など、述語が表す事象の完成度や時間軸における分布の様子などの差異化をもたらす文法形式である。これは、文法的手段として表現される文法範疇としてのアスペクトであるが、動詞や形容詞が持つ語彙の意味自体にもアスペクト的意味が存在する。これらを区別するために、文法範疇としてのアスペクトを「文法的アスペクト(grammatical aspect)」、語彙的意味によるアスペクトを「語彙的アスペクト(lexical aspect)」と言う。語彙的アスペクトに関しては、Vendler(1967)が「states」、「activities」、「accomplishments」、「achievements」の四つの分類を提示し、これは現在までも参考にされている分類であると言える。朝鮮語においてアスペクトの観点からの用言の分類を提示した研究には、油谷(1978)、浜之上(1991)、고영근(2007)、박덕유(2007)等がある。

本考察ではその中でも、朝鮮語の特徴をその分類に活かし客観的な分類が可能であると考えられる、浜之上(1991)による分類⁷に従い、動詞を「状態動詞」と「動作動詞」、動作動詞をさらに「状態性動作動詞」と「動作性動作動詞」に分類する。

⁷ 図1 浜之上(1991)による動詞の分類

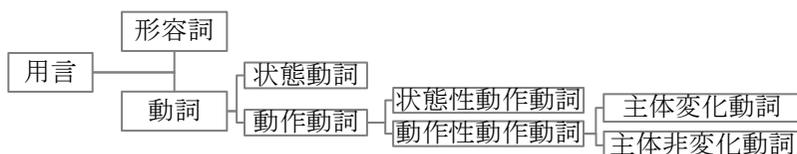


表 5 ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言に先行する語彙の音節数別出現様相

		‘-고 있-’ の結合	‘-고 있-’ 動作の具体性
形容詞		—	—
動詞	状態動詞	×	—
	動作動詞	○	具体的でない
	動作性動作動詞		
動作動詞	動作性動作動詞	○	具体的

浜之上(1991)は状態動詞と動作動詞の分類の基準として、‘-고 있-’ の結合が可能かどうかを採用し、状態性動作動詞と動作性動作動詞の分類の基準として、‘-고 있-’ の結合した形態が具体的な動作を表しているかどうかを採用しており、本考察でもこの基準に従って動詞を三つに分類している。このような分類によるそれぞれの動詞の特徴を整理すると上のようになる。

表 6 ‘-ᄃᆞ/하-’ 用言に先行する語彙の aspekto 的特徴別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
形容詞	2	2	8	5	11	6	9
状態動詞	0	8	14	18	7	45	13
状態性動作動詞	24	39	42	40	53	705	803
動作性動作動詞	18	15	43	16	43	541	710

- (4) a. 어머니 섬길 사르믄 우회 사라도 풀만티 말며
 事親者に居上不驕ᄃᆞ며(内訓一 46a)
 親に仕える人は目上の人もおごり高ぶらず
- b. 子 | 곶ᄃᆞ샤디 速고 차디 말며 小利를 보디 마를띠니
 子 | 曰無欲速ᄃᆞ며無見小利니(論語 3:44a)
 子が曰く速く欲張らず薄利を見ず
- c. 이는 어렵다 아니ᄃᆞ니 네 녀너 말라
 這箇不難你不要慮(朴新解 1:46a)
 これは難しくないので君は心配するな
- d. 도타 도타 네 게얼리 말고 거리에 游蕩티 말고
 好好你休撒懶街上閑游蕩(朴解上 45b)
 よしよし君は怠慢にせず街でぶらぶら遊ばず

次に上の例文(4)は、15世紀から19世紀に見られた文である。例文(4)aは‘말다’に形容詞である‘-ᄃᆞ-’用言、例文(4)bは状態動詞である‘-ᄃᆞ-’用言、例文(4)cは状態性動作動詞である‘-ᄃᆞ-’用言、例文(4)dは動作性動作動詞である‘-ᄃᆞ-’用言が先行したものである。

- (5) a. 거짓말 마. (『뜻으로 읽는 한국어사전』)
嘘をつくな。
- b. 미일(未日)에는 결혼하지 말라. (『민 의와 무 의』)
未日には結婚するな。
- c. 내일은 내가 알아서 할 테니
너무 걱정하지 마. (『가야 할 나라』)
明日は私が上手くするからあまり心配するな。
- d. 남의 말하듯 말하지 마세요. (『이상한 사람들』)
他人のことを言うように話さないでください。
- (21 世紀世宗計画コーパス)

次に上の例文(5)は、現代語に見られた文である。例文(5)aは‘말다’に形容詞である‘-하-’用言、例文(5)bは状態動詞である‘-하-’用言、例文(5)cは状態性動作動詞である‘-하-’用言、例文(5)dは動作性動作動詞である‘-하-’用言が先行したものである。

5. 先行用言の活用形態

ここでは、補助動詞‘말다’に先行する用言の活用様相を、補助的連結語尾と‘히디/하지’省略を基準に考察していく。

- (6) a. 이제 걱정하지 마세요.
もう心配しないでください。
- b. 이제 걱정 마세요.
もう心配しないでください。

(筆者による例文)

上のような例文において下線部で示した箇所が‘말다’とそれに先行する用言との結合部分である。例文(6) a では補助的連結語尾‘-지’が使われており、例文(6) b では‘하지’が省略されて名詞の後にすぐ‘말다’が後行している。

변정민(1995)、서정수(1996)、고영근(1997)、이세영(2002)、이지영(2008)、박지연(2009)、等の‘말다’についての研究では先行形態を以下のように説明している。

表7 ‘말다’ の先行形態に関する主な見解

主張する研究者	先行語彙に関する見解
서정수(1996)	【現代朝鮮語】 動詞+ ‘-지’、名詞（‘말다’ に連結語尾が続く場合のみ）、‘-는/도’（強調の意味）、副詞のあとの ‘하지’ と ‘주지’ の省略、形容詞+ ‘-지’
이세영(2002)	【現代朝鮮語】 ほとんどが用言。体言や副詞にも表れる。
박지연(2009)	【現代朝鮮語】 ‘-지’ は必須的副詞語として機能する。
이지영(2008)	【中世朝鮮語】 ‘-디’、形容詞や副詞(動詞 ‘ㅎ디’ の省略)、
고영근(2020)	【中世朝鮮語】 用言+ ‘-지’、‘-게’、‘-어’

このような先行研究から、‘말다’ の先行形態には補助的連結語尾が現れるのが基本であり、その他の形態として ‘ㅎ디/하지’ の省略を認めている研究もある。

‘말다’ の先行形態を、補助的連結語尾と名詞に分類し、時代ごとのそれぞれの出現状況を整理すると以下の表のとおりである。

表8 ‘말다’ の先行形態の出現状況

	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
補助的連結語尾	31	52	73	64	116	672	1107
名詞	20	23	36	18	6	625	427

- (7) a. 일로브터 朝夕 사이에 哀호미 니르러도 哭디 말라
 自是로朝夕之間애哀至不哭호라(家禮 9:10a)
 自然と朝夕の間に哀れな気になっても泣くな
- b. 반역흔 집 子식을 춌티 말며
 逆家子를不取호며(御内一 70a)
 反逆な家の息子を(婿に)取らず
- c. 내 네 아비 곤호니 勿외 分별 말라
 我如汝父호니勿復憂慮호라(法華 2:211b)
 私は君の父のようなのでまた憂慮するな

次に上の例文(7)は、15世紀から19世紀に見られた文である。例文(7)aと(7)bは‘말다’に補助的連結語尾が先行したものであり、例文(7)cは‘말다’

に名詞が先行したものである。

(8) a. 그 오랜 고난에 대하여

우리는 말하지 말하지 말자. (『운명과 형식』)

その長い苦難について私たちは話さないでおこう。

b. 그런 걱정 마시고 빨리 갑시다. (『한평 구휼의 안식』)

そんな心配せず早く行きましょう。

(21世紀世宗計画コーパス)

次に上の例文(8)は、現代語に見られた文である。例文(8)aは‘말다’に補助的連結語尾が先行したものであり、例文(8)bは名詞が先行したものである。

このような二つの形態に分けて考察すると、同じ用言でも補助的連結語尾を使用して現れていたり名詞のみで現れていたりするものも存在する。このようなことから、「名詞+‘말다’」は、‘말다’の前において‘ㅎ디/하지’が省略されていることがわかる。

6. 二つの関係

前章で提示した通り、‘말다’の先行形態には、補助的連結語尾が使用される場合と名詞が先行する場合がある。つまり、‘ㅎ디/하다’用言において、補助的連結語尾が使用される場合は‘ㅎ디/하지’が省略されず、名詞が先行する場合は‘ㅎ디/하지’が省略されているものである。このような‘ㅎ디/하지’の省略の有無が、先行語彙とどのような関係があるのかを考察していく。

6.1 先行する語彙の音節数との関係

まず、‘ㅎ디/하지’の省略と先行語彙の音節数にはどのような関係があるのかを考察していく。

表9 ‘ㅎ디/하지’が省略されない場合の先行語彙の音節数別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
一音節	21	31	45	26	27	230	203
二音節	3	9	28	33	80	844	840
二音節以上	0	0	0	0	0	20	65

表 10 ‘ㅎ디/하지’が省略される場合の先行語彙の音節数別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
一音節	3	1	2	2	1	177	62
二音節	15	21	32	15	3	431	350
二音節以上	1	0	0	0	2	17	15

まず、このような表において、‘ㅎ디/하지’が省略されない場合と省略された場合を比較してみると、15世紀から19世紀でこれらに特徴が見られた。それは、‘-ㅎ-’に先行する語彙の音節が一音節の場合、‘ㅎ디/하지’が省略される可能性が低く、‘-ㅎ-’に先行する語彙の音節が二音節以上の場合、‘ㅎ디/하지’が省略される可能性が高いということである。具体的に例文を挙げて考察していく。

- (9) a. 논호매 하기를 구티⁸ 말며
 分母求多ㅎ며(御内一 6b)
 分けることに多いほうを求めず
- b. 그 가프물 칙망티 마를씨니
 不責其報 | 니(御内三 34a)
 この報いを責めず

- (10) a. 노릇드윈 안식 말며
 不戲色ㅎ며(内訓一 9a)
 ふざけた顔色をせず
- b. 네 스스로 자탕 말라
 你不要自誇(朴新解 3:31b)
 自ら自分を誉めるな

例文(9)と(10)はそれぞれ15世紀から19世紀において、‘말다’の前で‘ㅎ디’が省略されていない文と、省略された文である。例文(9)を見ると、‘-ㅎ-’に先行する語彙の音節は、例文(9) a では一音節の語、例文(9) b では二音節の語が現れている。このように‘ㅎ디’が省略されない場合は先行語彙の音節数が統一されていない。しかし、例文(10)を見ると、‘-ㅎ-’に先行する語彙の音節が二音節である。このように‘ㅎ디’が省略されたものをみると、そのほ

⁸ 例文(9)に見られる‘티’という表記は、補助的連結語尾である‘디’に先行する用言の語幹に現れる‘ㅎ’が結合し、激音化したものが現れた表記である。そのためこのような文では‘ㅎ디’が省略されていないものとする。

とんどにおいて先行語彙が二音節以上で現れており、一音節の語は‘말하다’の回数のみであった。よって、‘-하-’に先行する語彙の音節数が一音節の場合、‘하다’は省略されにくいということが言える。

- (11) a. 사람 무시하지 마. (『토지 16』)
 人を無視するな。
 b. 돈을 위해서 일하지 마세요. (『여성중앙 21』)
 お金のために仕事をしないでください。
 (21世紀世宗計画コーパス)

- (12) a. 곧 나갈 테니 아무 걱정 말라. (『풀종다리의 노래』)
 すぐ出るので何も心配するな。
 b. 옆에서 잘 지켜 줄 테니까 아무 염려 마세요. (『목사의 바다』)
 横できちんと守ってあげるから何も憂慮しないでください。
 c. 속 모르는 말 말게. (『토지 2』)
 本心のわからないことは言うでない。
 (21世紀世宗計画コーパス)

上の例文(11)は、現代語において‘말다’の前において‘하지’が省略されなかった文であり、例文(12)は、‘말다’の前において‘하지’が省略された文である。現代語においても、‘하지’が省略された語彙の‘-하-’に先行する語の音節数を見てみると、‘말하다’を除いてすべてが二音節以上の語彙であった。

6.2 アスペクト的特徴との関係

つぎに、先行用言の省略と先行語彙のアスペクト的特徴にはどのような関係があるのかを考察していく。

表 11 ‘하다/하지’が省略されない場合の
 先行語彙のアスペクト的特徴別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
形容詞	2	2	3	5	10	6	9
状態動詞	0	7	13	18	7	8	9
状態性動作動詞	14	19	22	25	52	322	533
動作性動作動詞	8	12	30	11	38	336	557

表 12 ‘ㅎ디/하지’が省略される場合の
先行語彙のアスペクト的特徴別出現様相

時代	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
形容詞	0	0	1	0	0	0	0
状態動詞	0	0	1	0	0	1	3
状態性動作動詞	9	19	20	13	1	384	271
動作性動作動詞	10	3	13	4	5	240	153

まず、このような表において、‘ㅎ디/하지’が省略されない場合と省略された場合を比較してみると、形容詞や状態動詞など、用言に[動作性]がないものは、‘말다’の前において‘ㅎ디/하지’が省略されることが少ないということがわかる。

- (13) a. 뉘마다 평 니븐 사르미 잇거든 출티 말며
世有刑人이어든不取ㅎ며(内訓一 86b)
先代に罪人がいれば(婿に)取らず
- b. 子 | 골오사디 位 업스믈 患티 말오
子 | 曰不患無位오(論語 1:35a)
子が曰く位が無いことを病まず
- c. 일은 선인과 악인을 의론치 말고 (聖經七 56a)
事は善人と悪人を議論せず
- (14) a. 이기디 못호믈 분뽕 말라 말라 ㅎ더라
不患其不能伸이라ㅎ더라(内訓三 34a)
伸びないことを心配するなど言った
- b. 너히 히믈 말오
你休怪(翻老上 59a)
なんじ怪しまず
- c. 이는 어렵다 아니ㅎ니 네 넘너 말라
這箇不難你不要慮(朴新解 1:46a)
これは難しくないので君は憂慮するな

上の例文(13)は、15世紀から19世紀において、‘말다’の前で‘ㅎ디’が省略されなかった文であり、例文(14)は、‘말다’の前で‘ㅎ디’が省略された文である。このような文における‘-ㅎ-’に先行する語彙を比べてみると、‘ㅎ디’が省略された文では、‘-ㅎ-’が無くてもそれぞれの語自体で動作を

表すことができるものである。

- (15) a. 뉴스나 다른 사람의 말에 의존하지 말고. (『서평』)
 ニュースや他人の言葉に依存せず。
 b. 숫자에만 집착하지 마세요. (조선일보 2003 년 기사)
 数字だけに執着しないでください。

(21 世紀世宗計画コーパス)

- (16) a. 모두 모이고 일을 해도 늦지 않을 테니
걱정 마십시오. (『그 곳에 이르는 먼 길』)
 皆集まってから仕事をして遅くないので心配しないでください。
 b. 바보 같은 소리 말아요. (『오디션』)
 ばかみたいなことを言わないでください。

(21 世紀世宗計画コーパス)

上の例文(15)は、現代語において、‘말다’の前で‘하지’が省略されなかった文であり、例文(16)は、‘말다’の前で‘하지’が省略された文である。現代語における‘하지’の省略の有無を比較すると、語彙によって省略可能なものが決まっていたことがわかる。現代語において‘하지’の省略が頻繁に起こっていた語彙は、状態性動作動詞では‘간섭하다’、‘걱정하다’、‘상관하다’、‘생각하다’、‘염려하다’、‘오해하다’、動作性動作動詞では‘잔소리하다’、‘거짓말하다’、‘말하다’、‘소리하다’である。

このような考察から、15世紀から19世紀においても現代語においても、状態性動作動詞の中で「思考」と関連する用言、動作性動作動詞の中で「言動」と関連する用言において、同じように‘ㅎ디/하지’が省略されることがわかった。

7. おわりに

本研究は、禁止を表す補助動詞‘말다’に‘-ㅎ/하-’用言が先行する文において、‘말다’の前における‘ㅎ디/하지’の省略に焦点を置き、‘ㅎ디/하지’の省略の有無と用言の特徴との関係を通時的に明らかにすることを目的として考察を行った。

四章では、補助動詞‘말다’に先行する‘-ㅎ/하-’用言を、(1)先行語彙の音節数の観点から(2)用言の持つアスペクト的特徴の観点から分類した。五章では、補助動詞‘말다’の前における‘-ㅎ/하-’用言の活用様相を、補助的連結語尾と‘ㅎ디/하지’の省略を基準に考察した。そして先行する‘-ㅎ/하-’用

言の特徴と ‘-ㅎ/하-’ 用言の活用の関係性を、六章で言及した。

語彙の音節数の観点からの考察では、‘ㅎ디/하지’ が省略されたものほとんどにおいて、‘-ㅎ/하-’ に先行する語彙が二音節以上で現れていることが分かった。よって、‘-ㅎ/하-’ に先行する語彙の音節数が一音節の場合、‘ㅎ디/하지’ は省略されにくいということが言える。

用言の持つアスペクト的特徴の観点からの考察では、形容詞や状態動詞など、用言に[動作性]がないものは、‘말다’ の前において ‘ㅎ디/하지’ が省略されることが少ないことがわかった。また、状態性動作動詞の中で「思考」と関連する用言、動作性動作動詞の中で「言動」と関連する用言において、‘ㅎ디/하지’ が省略されることがわかった。

本考察は、‘말다’ の前における ‘ㅎ디/하지’ の省略のみに焦点を置いた考察であったため、文全体の統辞的特徴との関係については言及していない。これについては今後の課題として研究を進めていく。

<参考文献>

書籍・論文

- 고영근 (1997) 『표준 중세 국어 문법론』 집문당
- 김영란 (1998) 「한국어 금지 표현의 형식과 기능」 상명대학교 대학원 碩士學位論文
- 김창섭 (1997) 「‘하다’ 동사 형성의 몇 문제」 『악어문연구』 22, 서울대학교, pp. 247-267.
- 김효진 (2010) 「중세 국어 파생법 연구」 제주대학교 교육대학원 碩士學位論文
- 남기심, 고영근 (2019) 『표준 국어 문법론』 탐출판사
- 박지연 (2009) 「‘말다’ 구문 연구 : ‘말다’ 의 중립동사적 특성을 중심으로」 연세대학교 대학원 碩士學位論文
- 박지연 (2010) 「‘말다’ 의 문법적 위상 정립을 위한 통시적 연구」 『어문론총』 53 권 53 호, 한국문학언어학회, pp. 107-145.
- 서정수 (1996) 『현대 한국어 문법 연구의 개관』 한국문화사
- 심재기 (1982) 『국어 어휘론』 집문당
- 안병희 (1990) 『중세 국어 문법론』 학연사
- 우형식 (1998) 『국어 동사 구문의 분석』 태학사
- 이관규 (1999) 『학교 문법론』 월인
- 이서란 (1998) 「‘한자어+하다’ 동사 연구」 『관악어문연구』 23 권, 서울대학교, pp. 281-303.

이세영 (2002) 「 ‘말다’ 구성 연구」 동아대학교 대학원 碩士學位論文
최현배 (1961) 『우리말본』 정음문화사

辞典

국립국어원 (1999) 『표준국어대사전』 두산동아
남광우 (2014) 『교학 고어사전』 교학사

Web 사이트

국립국어원 모두의 말뭉치 (国立国語院みんなのコーパス)
<https://corpus.korean.go.kr/>

네이버사전 (Naver 辞典)
<https://ko.dict.naver.com>

디지털 장서각 (デジタル藏書閣)
<https://jsg.aks.ac.kr>

디지털 한글 박물관 (デジタルハングル博物館)
<http://archives.hangeul.go.kr/>

연세 말뭉치 용례 검색 시스템 (延世コーパス用例検索システム)
<https://ilis.yonsei.ac.kr/corpus/#/>

연세 현대 한국어사전 (延世現代韓国語辞典)
<https://ilis.yonsei.ac.kr/dic/>

- 受付 : 2022 年 7 月 31 日
- 修正 : 2022 年 9 月 13 日
- 掲載 : 2022 年 9 月 30 日

付録 1 出現用言の詳細

15 世紀

거짓말ᄃᆞ다(1)、供養ᄃᆞ다(2)、끓만ᄃᆞ다(1)、祈禱ᄃᆞ다(1)、끓ᄃᆞ다(6)、怒ᄃᆞ다(1)、다ᄃᆞ다(1)、盜賊ᄃᆞ다(1)、말ᄃᆞ다(3)、명ᄃᆞ다(1)、미여ᄃᆞ다(1)、범ᄃᆞ다(1)、병ᄃᆞ다(1)、封ᄃᆞ다(1)、분간ᄃᆞ다(1)、分別ᄃᆞ다(5)、邪婬ᄃᆞ다(1)、說法ᄃᆞ다(3)、심기ᄃᆞ다(1)、숙ᄃᆞ다(1)、안식ᄃᆞ다(1)、嬴심ᄃᆞ다(1)、傳ᄃᆞ다(2)、충ᄃᆞ다(5)、貪ᄃᆞ다(1)、行ᄃᆞ다(1)、戲論ᄃᆞ다(1)

16 世紀

求ᄃᆞ다(4)、倦ᄃᆞ다(1)、근심ᄃᆞ다(1)、欺ᄃᆞ다(1)、노ᄃᆞ다(1)、勞ᄃᆞ다(1)、다ᄃᆞ다(1)、當ᄃᆞ다(1)、도죽ᄃᆞ다(1)、動ᄃᆞ다(1)、되답ᄃᆞ다(1)、雷同ᄃᆞ다(1)、말ᄃᆞ다(1)、免ᄃᆞ다(1)、분간ᄃᆞ다(1)、비ᄃᆞ다(1)、딱ᄃᆞ다(1)、설만ᄃᆞ다(1)、視ᄃᆞ다(1)、施ᄃᆞ다(1)、스랑ᄃᆞ다(1)、스모ᄃᆞ다(1)、言ᄃᆞ다(1)、欲ᄃᆞ다(1)、辱ᄃᆞ다(2)、衛ᄃᆞ다(1)、友ᄃᆞ다(1)、猶ᄃᆞ다(1)、 의심ᄃᆞ다(1)、因循ᄃᆞ다(1)、잡말ᄃᆞ다(1)、자랑ᄃᆞ다(2)、줏ᄃᆞ다(1)、질정ᄃᆞ다(1)、聽ᄃᆞ다(1)、憚ᄃᆞ다(1)、廢ᄃᆞ다(1)、함담ᄃᆞ다(1)、허믈ᄃᆞ다(15)、허소ᄃᆞ다(1)、患ᄃᆞ다(4)、誨ᄃᆞ다(1)、喜ᄃᆞ다(1)、

17 世紀

加ᄃᆞ다(1)、改ᄃᆞ다(1)、高大ᄃᆞ다(1)、告ᄃᆞ다(1)、告廟ᄃᆞ다(1)、哭ᄃᆞ다(6)、근심ᄃᆞ다(1)、ㄹᄃᆞ다(2)、농ᄃᆞ다(1)、답네ᄃᆞ다(1)、答拜ᄃᆞ다(3)、當ᄃᆞ다(1)、더蓄ᄃᆞ다(1)、도적ᄃᆞ다(2)、讀祝ᄃᆞ다(2)、懶惰ᄃᆞ다(1)、말ᄃᆞ다(1)、問ᄃᆞ다(1)、미여ᄃᆞ다(1)、配ᄃᆞ다(1)、拜ᄃᆞ다(3)、변ᄃᆞ다(1)、變服ᄃᆞ다(2)、服ᄃᆞ다(2)、訃ᄃᆞ다(1)、赴據ᄃᆞ다(1)、분변ᄃᆞ다(1)、設ᄃᆞ다(2)、設奠ᄃᆞ다(1)、盛奠ᄃᆞ다(1)、小看ᄃᆞ다(1)、衰ᄃᆞ다(1)、受胙ᄃᆞ다(1)、스랑ᄃᆞ다(1)、스慕ᄃᆞ다(1)、아쳐ᄃᆞ다(1)、語ᄃᆞ다(1)、連ᄃᆞ다(1)、擾及ᄃᆞ다(1)、由ᄃᆞ다(1)、游蕩ᄃᆞ다(1)、飲食ᄃᆞ다(1)、 의논ᄃᆞ다(1)、 의심ᄃᆞ다(1)、자랑ᄃᆞ다(3)、作ᄃᆞ다(1)、杖ᄃᆞ다(1)、著ᄃᆞ다(1)、奠ᄃᆞ다(1)、吊喪ᄃᆞ다(1)、접卜ᄃᆞ다(1)、祭ᄃᆞ다(2)、餽ᄃᆞ다(1)、重ᄃᆞ다(1)、震動ᄃᆞ다(1)、疾怨ᄃᆞ다(1)、참預ᄃᆞ다(2)、參與ᄃᆞ다(1)、천즈ᄃᆞ다(1)、取ᄃᆞ다(1)、츠레ᄃᆞ다(1)、通ᄃᆞ다(1)、行ᄃᆞ다(2)、허ᄃᆞ다(1)、허費ᄃᆞ다(1)、허믈ᄃᆞ다(15)、惑亂ᄃᆞ다(1)、昏姻ᄃᆞ다(1)、遷ᄃᆞ다(1)、降ᄃᆞ다(6)

18 世紀

求ᄃᆞ다(4)、권ᄃᆞ다(1)、嬌癡ᄃᆞ다(1)、근심ᄃᆞ다(2)、기록ᄃᆞ다(1)、넘녀ᄃᆞ다(5)、寧ᄃᆞ다(1)、당부ᄃᆞ다(1)、跳梁ᄃᆞ다(1)、動ᄃᆞ다(1)、懶惰ᄃᆞ다(1)、말ᄃᆞ다(2)、命ᄃᆞ다(1)、背反ᄃᆞ다(2)、背約ᄃᆞ다(1)、변기ᄃᆞ다(1)、分변ᄃᆞ다(1)、딱ᄃᆞ다(1)、辭讓ᄃᆞ다(2)、설만ᄃᆞ다(1)、屬ᄃᆞ다(1)、순ᄃᆞ다(1)、失時ᄃᆞ다(1)、스慕ᄃᆞ다(1)、스양ᄃᆞ다(2)、원망ᄃᆞ다(1)、요동ᄃᆞ다(1)、擾亂

하다(1)、辱하다(1)、用廬하다(1)、憂念하다(1)、遊行하다(1)、遊蕩하다(1)、因循하다(1)、일흠하다(1)、入執하다(1)、장해하다(1)、자랑하다(5)、
 爭分하다(1)、질정하다(2)、責망하다(1)、取하다(5)、冶容하다(1)、친하다(1)、
 침노하다(1)、통하다(1)、廢하다(2)、허물하다(3)、허하다(3)、
 혐의하다(1)、慌忙하다(1)、忽하다(2)、侯하다(1)、

19 世紀

간예하다(1)、간음하다(1)、걱정하다(3)、결단하다(2)、경영하다(1)、고
 집하다(1)、과도하다(1)、관계하다(1)、교만하다(1)、구애하다(1)、굴
 하다(1)、근심하다(4)、금하다(1)、기록하다(1)、꺾치하다(3)、피하다(1)、
 녀녀하다(1)、노하다(1)、늦하다(1)、더하다(1)、도모하다(4)、도적질
 하다(2)、말하다(1)、무서워하다(1)、미워하다(1)、발하다(1)、분노하다(1)、
 분변하다(1)、불목하다(1)、불화하다(1)、산란하다(1)、살인하다(1)、
 상하다(1)、슬혜하다(1)、시험하다(1)、실망하다(1)、스모하다(1)、스양
 하다(1)、싱각하다(2)、육하다(1)、원망하다(1)、음난하다(1)、의론하다
 (29)、의심하다(2)、이동하다(1)、이통하다(1)、장하다(1)、저주하다(1)、
 족하다(1)、지체하다(1)、탄식하다(1)、탐하다(5)、투기하다(2)、투도
 하다(1)、파하다(2)、패하다(1)、피하다(2)、평계하다(1)、한가하다(1)、
 허비하다(1)、혐의하다(1)、형벌하다(2)、혹하다(1)、혼잡하다(1)、훈
 하다(1)、희하다(1)、횡하다(2)